

国民の安全を守るために、当研究所では災害・防災に対応した技術開発に取り組んでいます。地震、台風及び大雨などの被害状況を現地で詳しく調査し、この結果をもとに関係行政機関と連携して今後の災害応急対策、復旧対策及び防止対策の研究を行っています

○国道231号土砂災害への技術支援

平成29年9月10日から断続的に強い雨が続き、9月14日に北海道石狩市浜益区の国道231号の約4km区間にわたって、表層崩壊、切土のり面崩壊、土砂流出、路面冠水等の災害が発生し、通行止めとなった。

この災害に対し、北海道開発局札幌開発建設部から要請を受け、現地調査を実施し、斜面災害の発生機構や対応方針に関する技術支援を行い、翌15日の通行止め解除に至った。



表層崩壊箇所の調査の様子



堤防越水・堤防一部流出

○平成28年台風第10号等における災害調査・技術支援

平成28年8月20日からの大雨や平成28年台風第10号により、河川堤防等の河川施設、土砂崩壊地、橋梁等の道路施設が各地で被災した。

各管理者から災害派遣の要請を受け、被害状況調査、二次災害防止、被災施設の復旧等に関する高度技術指導のため、職員を現地に派遣した。



融雪による地すべり災害

○羅臼町幌萌の海岸付近で地すべりの被災調査

平成27年4月27日～28日羅臼町幌萌の海岸付近で地すべりが発生し、町道が被災するとともに、地すべりの滑動により海底が隆起した。

この災害に対し、北海道開発局より要請を受け、ヘリコプターによる現地調査を実施し、地すべり発生機構や被害状況等に関する技術指導をおこなった。



国道の土石流災害

○北海道内の大雪による土砂災害に対する技術指導

平成26年度は北海道内で局的に猛烈な雪が8月に礼文町や稚内市で、9月に支笏湖周辺で降り、大雪による土砂災害が相次ぎ発生した。特に9月の支笏湖周辺の大雪では数十年に一度の大雪が予想される「大雪特別警報（土砂災害、浸水害）」が北海道で初めて発表され、国道453号の北奥漁観測点では降り始めからの降水量は365mmに達し、最大1時間降水量は68mmを記録した。土石流や河川増水による橋梁等の損傷や道路斜面の表層崩壊等、国道453号では19箇所が被災した。これらの災害に際して、北海道開発局から派遣要請を受け、各災害箇所へ派遣し、現地調査を行うとともに応急対策について助言した。



国道の盛土法面の崩壊

○融雪による斜面災害への対応

平成25年4月7日～8日、国道230号の路肩部で盛土崩壊が発生、谷側の片側車線の盛土が延長約50mにわたって崩壊。北海道開発局からの要請を受け、現地調査を実施し、盛土崩壊の発生機構や対応方針に関する技術指導を行った。

又、芦別市西芦別の国道452号の地すべり、千歳市支笏湖温泉の国道453号の落石等の融雪に起因する斜面災害の地質調査や応急対策工への技術指導を行った。